

国民体育大会 関東ブロック大会 派遣報告書

大会名	第71回国民体育大会 関東ブロック大会 バスケットボール競技
報告者	遠藤 大輔 (高体連女子専門部)
期間	平成28年8月19日 (金) ~ 21日 (日)
会場	山梨県 富士北麓公園体育館
スケジュール	8月19日 (金) 審判会議、レクチャー 8月20日 (土) 1回戦、レクチャー 8月21日 (日) 準決勝・決勝

8月19日 (金) 審判会議

渡邊 整氏 (関東審判長) より

オリンピックに出場する選手を育てる大会として、コート内外で様々な気配りを心がけ公平公正なジャッジに基づき、正しいチームが勝利する判定を行うこと。

A級研修としての位置づけ、技術の理解や考え方を深めS級を目指す強い決意を持つこと。

判定についてはプレイを正しく見極め、判断し判定すること。笛を吹くということは正しい方向にゲームを導くためのものであり、選手、コーチの気持ちの理解が不可欠である。

四原則は判定の手段として活用し、何を見て何を判定するのかを大切にし絶えず位置を変え良い角度と視野を確保すること。

スリーパーソンの言葉やメカが先行しているがツーパーソン時にはツーパーソンのメカを重視し、ブラインドや動きながらの判定が無くなっていくようにすること。目や耳からの情報をインプットして足を運んでアウトプットすること。

レクチャー

テーマ「S級になるために取り組んだこと、感じたこと」

講師 北島 寛臣氏 (指名・埼玉)

指導者としての経験から審判としてのターニングポイントについて。目標設定を明確にもつこと。「なりたいな」から「なる」、「やりたいな」から「やる」の変化をどう作っていくか。審判以外での技術の勉強が審判活動に生きている。覚悟を決めて次のステージを目指してほしい。割り当ても大きく変わる、目指してほしいステージがS級である。変化を自分の中に見出せるように活動してほしい。

テーマ「スリーメンメカニクスについて」

講師 山崎 人志氏 (指名・埼玉)

スリーメンに対する様々な伝達事項について。

「ステイアンドシー」; 止まって長く見る

「プライマリーエリア」; 責任エリア (ファースト、セカンド、サード)

「デュアルエリア」; 二人の視野が重なる場所

影響ではなく「RSBQ」リズム・スピード・バランス・クイックネスの変化
「レフリーディフェンス」;ディフェンスを見る
トレイルからニューリードのセットアップポジションまで真っ直ぐ走る(4秒)
「セットアップポジション」;リングの先端が見えている位置へ立つ
「クローズダウン」;準備段階、歩いてスイッチする。リードとトレイルはひもで結ばれている感覚を持つ。センターはスイッチを確認してからトレイルへ移動する。
センターとトレイルはコートの中にいること。
ミラー;トレイルもリードと一緒に手をあげる
TOへのオペレートは声を出して伝達する
タイムアウト時はリスタートの場所にボールを置いていく
強く、歯切れの良い笛を吹くこと
レポートのジェスチャーを力強く行う

8月20日(土) レクチャー

テーマ「ゲームマネジメントについて」

講師 関口 知之氏(日本協会)

うまい審判とはどのような審判か?

→突発的なことにすぐ対応して、処置が間違っていない審判。

(A級は判定は出来るが突発的なことに対応できるかどうかうまさに繋がる)

◎映像研修<<NBL2016ファイナル第3戦より>>

*プロジェクターを使用してケース(映像)を関口氏が解説

「トラベリングの判定に対して納得のいかない選手がボールを離さず、相手選手がそのボールを叩き落としたことにより、アンスポが課されるケースについて。」

→質問形式でケースの検証。第2戦からのセムケースについての説明等あり。

この突発的な事態に対してさらに精度を上げていくためには、処置の後先を間違えてはいけない。

ゲームマネジメントの意味合い

取り上げるものをしっかりと取り上げていく事、それがゲームコントロールである。

クルーの約束事を作っていく事が、ゲームカンファレンスである。

相手の目の前は、相手を尊重する。相手の吹く機会を与えること。

どんどん変わる新しいことをすぐ取り入れられる柔軟性をもつこと。

どうしてルールが変わったのか、その背景の根拠を考えて理解すること。

テーマ「S級になるためには」

講師 山田 巧氏(日本協会)

1. S級審判を目指すこと
2. 地元の若手審判を育成すること
3. バasketボールの発展を担うこと

①判定力 ②分析力 ③メンタル ④スタイル ⑤環境

自分とS級審判の違い。A級は思った瞬間になれるがS級は選手以上に努力できた人のみ。

レフリーとしてのセオリーを持つこと。自分がどうするかが大切である。このプレーはこうしなければいけないと説明できること。ゲームについていくのではなく、ゲームの方向を先導すること。アンテナを張って、コート上で感じる。職場と家庭の理解。

審判割り当て

日 時：8月20日（土）12：30

相手審判：（副審）梶 崇司（栃木）

試合：少年男子 山梨 対 群馬

審判主任：真栄喜 工氏（埼玉）

審判講師：関口 知之氏（日本協会）

ミーティング内容

アクトオブショットにしてよいケースをショット前にすることが気になる。フロッピングに対する声掛けは良かった。大きなものではなく、小さなもので取り上げるまではいかないものに対してどのように声掛けをしていくかが大切である。ピリオド終了間際のショットファールに対して時間を戻す必要があったかどうか？

日 時：8月21日（日）12：30

相手審判：（R）廣瀬 俊昭氏（神奈川） （U2）武藤 陽子氏（茨城）

試合：成年女子準決勝 栃木 対 千葉

審判主任：和嶋 陽一氏（東京）

審判講師：山田 巧氏（日本協会）

ショットファールに対する説明責任を明確にもつこと。センターレフリーとしてのバックパスへの備え。トレールレフリーとしての追従の工夫とコフィンコーナーでのダブルチームへの対応。スクリーンプレーの技術の理解とプレーを長く見て判定の材料を増やす努力をすること。リバウンド争いに対して判定のシビアさを持つこと。リードのセットアップポジションをもっと開いて構えること。

全体を通して

今回の国体関東予選（ミニ国体）に派遣させていただき感じたことは、一つ一つの現象にしっかりと自らの説明責任を果たすということです。バスケットボールの技術の理解にも通ずることでありますが、ルールに照らし合わせて何が、なぜそう判断したのか。その答えにさらなる厳密さが必要であると痛感させられました。新たなチャレンジをしていきたいと思えます。

最後になりましたが、今回の派遣に際し大変お世話になりました開催地の山梨県の皆様、日本協会からの講師の皆様、大会を支えた他県審判員の皆様、派遣の機会をいただいた東京都の皆様に感謝申し上げます。